



橋永金属は Face to Face を大切にしています

- ★ お引き合い
- ★ お問合わせ
- ★ 情報提供
- ★ クレーム対応
- ★ 納品



■ お客様の生の声を聞くことから始めます

情報通信の発達でますます便利な世の中になりました。
それでも電話、FAX、メールだけでは伝えきれないことがたくさんあります。だからこそ私たちは 今も昔も
Face to Face の親切対応を大切にしてきましたのです。
さまざまなご要望にお応えするために、国内外を問わず
皆様のもとへ駆けつけ、誠心誠意対応させていただきます。





■ 材料を親切対応でお届けしています

グローバル化が進む中、私たちの営業フィールドも国内はもとよりアジア各国へ広がっております。

橋永金属のスタッフ一同は国内外すべてのお客様に対し **Face to Face の親切対応** で材料をお届けしています。



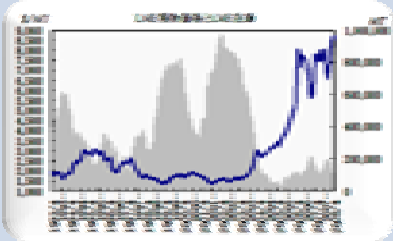
■ 私達のPOWER

橋永金属はこれまで皆様のご要望に対し、常に真剣に前向きに取り組んできました。私達には最後までさわやかさを忘れず **Face to Face の親切対応** ができる社風が脈々と受け継がれているのです。

それが私達のPOWERの一つとなっています。

12. 事業環境



潮流	機会と脅威
世の中	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーダーレス化の進展（人・モノ・金） ・環境意識の高まり 地球温暖化対応 ・新興国の需用拡大 ・資源高騰（原油・鉱物・食糧） 
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化による、市場拡大・現地調達の加速（価格・品質・サービスのベンチマークの変化） ・環境性能向上・コスト削減のための設計見直し（潜在ニーズの拡大・既存商品の衰退） ・リスク管理の高まり（BCP対応）
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ・生残りを賭けた事業再編・企業統合（製造品種、ロット重量、価格体系の見直、受注選別） ・事業継承 技術の伝承
自社	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代を進めてきた（経営・営業・管理・経理） ・我々の知的資産（提案力 創造力 品質力 対応力） ・収益構造（顧客・商品）に偏りがある。 ・新規顧客開拓・商品開発のプロジェクト化 ・仕事の標準化・効率化への意識の高まり

世界的な需要拡大に伴い、アルミ・銅など、非鉄金属材料価格は近年上昇を続けています。特に銅における上昇幅は4年前に比べ4倍に当たる高値圏にあります。

このような地金高騰で素材産業は追い風との印象を受けるかとおもわれますが、高騰した原料を購入し材料を製造する圧延業界は原油高も加わり大変厳しい事業環境下にあります。またこの材料をプレスや鍛造といった加工を施し製品にされる部品加工メーカー様や自動車、電子部品メーカー様も材料価格の上昇は製造原価を押し上げるマイナス要因として重くのしかかっています。

原料の高止まりが定着しつつあるなか、お得意先様もお取引先様も生き残りを賭け前例のない構造変革の潮流の中にあります。我々流通業界もこの変化の渦の中でしのぎを削っています。

13. 将来に向けて



第9次中期経営計画

ありたき姿

ニーズとシーズをつなぐ 真のモノづくり商社への進化

目的

コーディネート力を磨き、市場で勝ち抜く

収益構造・商品構成の転換

目的達成のため、重点施策を定め全社員一丸で取り組んでまいります。
実行にあたって、私達のもつ知的資産のひとつでもある
「Face to Face で親切対応」をモットーにステークホルダーの皆様
それぞれの施策を実感いただけるよう推進してまいります。

社会	得意先	取引先	経営	従業員
環境保全活動	得意先比率 既存：新規 8：2	拡販プロジェクト共同展開	経常利益率 3%	自己成長 (目標設定)
地域貢献	商品構造 既存：新規 6：4	共同勉強会 展開	自己資本比率 30%	教育の充実 (教育計画)
法令遵守	情報発信 倍増	BCPの 共有	依存度 20%以下/社	資格件数
	提案件数 倍増	情報収集件数 倍増	SWOTの 継続	知的資産の 強化・継承

14. 会社概要



社名	橋永金属株式会社	
代表取締役	橋永勝弘	
創立	昭和10年	
設立	昭和21年	
所在地	〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂3-3-2 TEL 03-3421-1916 FAX 03-3412-7404	
資本金	10,000,000円	
従業員	20名（うち嘱託4名 派遣1名）	
事業内容	非鉄金属材料および加工部品の販売	
取引銀行	三菱東京UFJ銀行 東京都民銀行 商工組合中央金庫 中小企業金融公庫 みずほ銀行	都立大学駅前支店 世田谷支店 渋谷支店 新宿支店 自由が丘支店
主な加入団体	東京都伸銅品商業組合 東京軽金属商協会 東京商工会議所 目黒法人会 目黒区産業連合会 環境G r 東京倫理法人会	
資格	ISO 9001 認証取得 ISO 14001 認証取得	
URL	http://www.hashinaga.co.jp	

15. 支援者からのコメント



知的資産経営報告書作成においては、まず自社の環境分析を行います。
橋永金属さんの場合、全社員でSWOT分析を行いました。
その中の「強み」に、「よい先輩がいた」という意見が出ました。聞いてみると、先輩から様々な指導を受けたことによって成長できた。今日あるのは先輩の方々のおかげです、というのです。この意見には全員が同意されました。世代の断絶や、自分だけが良ければそれでよしとする風潮の中にあって、先輩と後輩が信頼の絆で結ばれていることに感動を覚えました。その先輩の方々は、今も定期的に橋永金属に指導に来られています。先輩からの知的資産を受け継ぎ、社員が一体となって日々の活動に生かす。これが橋永金属の強みなのだと感動させて頂きました。

(有) ツトム経営研究所 代表取締役

森下 勉

16. 知的資産経営報告書とは



「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産です。企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

また、「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しています。

17. 本書ご利用上の注意



本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しています。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことを、十分にご了承願います。

18. お問い合わせ先



橋永金属株式会社 営業部
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂3-3-2
TEL 03-3421-1916 FAX 03-3412-7404